



真龍小便り

【学校の教育目標】
 ☆心と体をきたえる子
 ☆美しい心をもつ子
 ☆考えて行動する子
 ☆生き生きと学ぶ子

No.13 令和8年2月27日発行

生活に生かすということの一つ

校長 廣瀬 巧

徐々に流行し始めたインフルエンザにより学年閉鎖が相次ぎました。現在は収束に向かっており、長期化することなく体調を回復させる子どもが多く何よりでした。この間、ご家庭におかれましては体調管理やお迎への対応などのご協力をいただきありがとうございます。季節の変わり目も早まっているようですので、まだ油断はできない状況でもあります。今後は閉鎖などなく年度の締めくくりに向かっていけることを願っています。引き続きのご協力をお願いいたします。

ミラノ・コルティナオリンピックが終了しました。本校卒業生である佐藤綾乃選手も素晴らしい活躍を見せてくれました。私のような観戦者にとっては、本人の努力や苦勞について理解することはできないので、ただただ、結果がよりよいものになることを願って応援するしかできません。試合の結果は本人の望むものではなかったかも知れませんが、私たちに多くのものを与えてくれたように思います。近年スポーツ観戦していると、選手の謙虚さや相手に対する畏敬の念、他を批判することなく自分自身を問う姿をよく見ます。また、結果が出なかった悔しさやすぐに次に向かおうとする気持ちなどなど、ずいぶん昔の勝利至上主義とは異なるスポーツマンシップの現れと選手当人の素晴らしい人間性が垣間見えます。競技はもちろん、人の心の一端に触れると、自分自身の生活で見直すべきことにも改めて考えるきっかけをもらいます。

よく努力は必ず報われると言われます。結果が伴わなかった場合は努力が足りなかったとも言われます。しかし、競技スポーツは、はじめから1位の枠は1つしかありませんから、そこに到達できなかった人は全て努力が足りなかった、という判断にはならないでしょう。そのほかにも競争・選抜など世の中には、努力だけでは必ず結果に結びつかない、ある意味厳しい現実があります。では、なぜ努力は裏切らないとか必ず報われるというような言い方がされるのかということ、ある側面からは正しいからに他ならないからです。例えば、毎日子ども達が学んでいる事柄、手順が面倒だったり、覚えることがたくさんあったりというものもたくさんあります。それでもある程度の時間をかけるとやり方がわかったり、早くできるようになったり、記憶することが可能なものが多いです。世界一の早さや全国一の知識量を求めているわけではありません。ある程度時間がかかることを「こつこつ努力」と称しています。個人差はあっても諦めたり投げ出したりしなければ習得可能となるこの努力は、報われる可能性が極めて高いものといえます。

ところが、近年の社会では、やっても無駄、どうせできない、誰かがやればいい、というような後ろ向きな考え方が時として大いに尊重され「個性」と称されることも多くなっています。このような考え方がメディアで取り上げられれば、あたかもそれが主流、流行最先端と混同されることすらあります。昭和のドラマなどでは、強い叱責でいきなり開眼して自分を改めるというシチュエーションがよく描かれていました。今では（というよりも昔から）その手法はあまり有効ではないことは明らかです。それならばどのように心に響かせるのかという方法は、これまた難しいわけですが、本校の教員も毎日子どもに向き合い実践努力しているところです。

周囲の人の努力に触れる、自分を振り返る、という体験は自分を成長させるために非常に効果的な方法でもあります。折しもオリンピックを通して、身近な人の大きな努力を見ることができました。子ども達も応援を通して、何かしら感じたり得たりしていることでしょう。それが自分の生活にも反映され、生かされると素敵だなと思います。

日	曜	3月の主な行事
1	日	
2	月	講話朝会
3	火	短縮日課
4	水	6年生を送る会 放課後学習 卒業読み聞かせ（6年）
5	木	短縮日課
6	金	短縮日課
7	土	
8	日	
9	月	合唱朝会（1～5年生）
10	火	短縮日課
11	水	スクールカウンセラー来校日
12	木	短縮日課 卒業式練習（1～5年）
13	金	短縮日課
14	土	
15	日	
16	月	合唱朝会（1～5年生） 大掃除週間（～23日）
17	火	短縮日課 卒業式練習（全学年）
18	水	卒業式会場設営（5年）
19	木	第125回卒業証書授与式
20	金	春分の日
21	土	短縮日課 朝読書回収日（1～5年）
22	日	
23	月	
24	火	短縮日課 修了式・離任式
25	水	春休み～4月8日
26	木	
27	金	
28	土	
29	日	
30	月	
31	火	

3月の帰宅時刻 17:00
 この時間以降の外出は保護者同伴をお願いします。
 児童の下校時刻に合わせて、また夏冬春休み中は日中家の外に出て、庭作業や掃除などを行いながら、同時に児童の見守りを行う「ながら見守り」への協力をお願い致します。

冬の読書パビリオン

本校では、2月2日から27日まで「冬の読書パビリオン」を開催しました。冬休みに取り組んだ読書課題の成果を全校で共有し、読書の楽しさや広がりを感じることをねらいとした取組です。近年、子どもたちの「読書離れ」がささやかれ、日常的に本に触れる機会が少なくなっているとも言われています。そのような中で、本校では国語科の学習と関連付けながら、読書に親しむ時間を意図的に設けてきました。会場には、各学年の学習内容に応じた多様な作品が並びました。物語に登場する動物を紹介したカード、心に残った場面を絵で表した作品、おすすめの本を伝えるカードやポップ、動画による紹介など、表現方法もさまざまで、子どもたち一人一人の思いや工夫が感じられる展示となりました。展示を通して、自分の考えを言葉にして伝える力や、他者の考えに触れて学びを深める姿が見られました。今後も、学校全体で本に触れる機会を大切に、読書が子どもたちの学びや成長につながるよう、継続した取組を進めてまいります。



真龍中学校体験入学

2月5日(木)、6年生を対象に、真龍中学校で体験入学が行われました。この体験入学は、来年度から始まる中学校生活への不安を和らげ、期待をもって進学できるよう、毎年実施されているものです。

当日は、はじめに中学校での生活やきまりについてのガイダンスがあり、小学校との違いについて丁寧な説明を受けました。その後、校舎内を見学し、実際に教室を巡りながら、中学校ならではの雰囲気を感じることができました。続いて、国語・数学・体育の体験授業が行われ、子どもたちは事前に選択した授業に参加しました。中学校の先生による授業を実際に受けることで、小学校とは異なる学びのスタイルを体験し、真剣な表情で取り組む姿が見られました。

4月から始まる新たな学校生活が、実り多いものとなることを願っています。ご協力いただいた真龍中学校の先生方に、心より感謝申し上げます。

厚岸かぐらの伝承

3年生は、総合的な学習の時間に、厚岸町に古くから伝わる伝統文化「厚岸かぐら」について学習しました。厚岸かぐらは江戸時代から受け継がれてきた町を代表する文化財で、本校は町より伝承校の指定を受けています。

学習では、厚岸かぐら同好会の皆様を講師にお迎えし、演目の意味や踊りの基本動作について、実演を交えながらご指導いただきました。子どもたちは動き一つ一つに思いを込め、意欲的に練習に取り組んでいました。

参観日には、学習の成果を発表し、多くの保護者の皆様に成長した姿を見ていただくことができました。

厚岸かぐらに親しみ、踊る体験を通して、子どもたちが地域の歴史や伝統を身近に感じ、次の世代へとつないでいく心を育んでくれることを願っています。ご指導・ご協力をいただいた厚岸かぐら同好会の皆様、そして海事記念館の皆様に、感謝申し上げます。

真龍おはなし隊・学校司書の【今月のおすすめ本】

『くるみのなかには』

たかお ゆうこ(講談社)
真龍おはなし隊 森脇 直美

これは 小さな くるみのものがたり
もし シャリン チリン と いいおとがしたら?
もし リスがかくしたくるみなら?
もし くるみに小さなドアがついていたら!
ゆらしたり みみにあてたり してみます

小さなくるみ、「次はどうなるの?」とワクワクして次のページをめくり、予想を超えた素敵なストーリーに楽しくなってしまう絵本です。こんな風だと素敵ね…でも、くわしい内容は、皆さま読んでみてからの楽しみです。

数年前に入院したことがあるのですが、その際、白糠町の絵本の読みきかせ活動をされている方からお見舞いと送ってくださったのが、この本です。

私に?絵本?と最初は不思議に思いましたが、開いてみると引き込まれ、入院中の味気ない生活に豊かな時間をいただきました。

大人もウキウキ、子どもならきっとワクワクする美しい絵本です。

親子で一緒に読む、ひとりの世界に入って読む、どちらも素敵な時間を過ごすことができると思います。

厚岸情報館に所蔵があります。

